

## ボストン・ノースエンド地区との比較による 日本橋地域の職住一体都市更新手法の研究

小林博人

(慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 教授)

本研究は、東京都中央区日本橋一の部地域を対象に、日本橋らしさを保ち高めていくための、地域の魅力や将来像を地域全体で共有し、今後の街づくりのあり方を示すことを目的としている。日本橋と似た特徴を持つ、ボストン・ノースエンド地域との比較を通し、日本橋一の部のポテンシャルを導き出し、将来ビジョンの提案を行う。

日本橋地域は、江戸時代からの経済・政治・流通・文化の中心地であり、かつては人々の生活がそのまま生き生きとした活気につながる、にぎわいある商業地域であった。しかし時代とともに、地域の商業地としての活気は低下し、にぎわいの少ないビジネス街へと変化した。

ボストン・ノースエンドは、19世紀後半以降イタリア人移民が増加し、1920年には90%がイタリア系となり現在でもリトルイタリーとして知られる地域である。ボストンの高速道路はBig Digプロジェクトにより撤去・地下化され、それまで高速道路によって分断されていたノースエンド地域は周りの地域とつながりを持つようになり、ジェントリフィケーションを誘発した。高速道路撤去により、ノースエンドの特徴であったリトルイタリーの街は失われつつある。

日本橋一の部の調査を行い、同じ歴史ある街、似た特徴を持つボストン・ノースエンドと比較し、日本橋一の部のポテンシャルを探るとともに、高速道路撤去の事例としてノースエンドの街の変化について調べ、日本橋の今後の街づくりの方向性を導き出した。

日本橋一の部では、「時間軸」「空間軸」「人間軸」の3軸より、街づくりの方向性を定めた。街が今まで歩んできた歴史をふまえ、生かした上で街の未来のビジョンを描く軸である「時間軸」。街の建築物や、通りなどが生み出す、街の空間に焦点を当てた軸である「空間軸」。街づくりをおこなう際の基盤になる「人」の捉え方を考えた軸である「人間軸」。

本研究を通して導き出した日本橋一の部のポテンシャルを活かしながら、活気のある商いの街を守り発展させていけるよう、今後の街づくりについての3軸のビジョンを地域全体で共有し、街づくりの方向性を考えていきたい。